

平成26年6月26日

要望書等を提出いただいた皆様へ

大空町議会事務局長 大槻明弘

要望意見書（写）の送付について

時下、ますます御健勝のことと拝察いたします。

日ごろから、本町議会に対し御理解と御協力をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、先に貴殿（団体）からの陳情に基づく意見書について、平成26年第2回大空町議会定例会（6月23日～24日）において採択（議決）し、今般、関係省庁等宛送付したところであります。

つきましては、当該意見書の写しを送付いたしますので、よろしくお取り計らいくださるようお願い申し上げます。

なお、本町議会（常任委員会）の判断等により、提出いただいた意見書の文案の誤字及び言い回しの修正並びに主旨を損ねない範囲で文案を変更している場合がありますので、何とぞ御了承ください。

本件に何か御不明な点などがありましたら、下記担当者まで御連絡くださるようお願いいたします。

※なお、同様のものを「大空町議会のホームページ」へ掲載を予定しております。

URL <http://www.town.ozora.hokkaido.jp/>

・担当：大空町議会事務局長 大槻明弘
・電話：0152-74-2111
・FAX：0152-74-2191

ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充に関する要望意見書

我が国においてウイルス性肝炎、B型・C型肝炎の患者が合計350万人以上とされるほど蔓延しているのは、国の責めに帰すべき事由によるものであるということは、肝炎対策基本法などでも確認されているところであり、国の法的責任は明確になっている。

ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成は、現在、肝炎治療特別促進事業として実施されているが、対象となる医療が、B型・C型肝炎ウイルスの減少を目的とした抗ウイルス療法であるインターフェロン治療と、B型肝炎の核酸アナログ製剤治療に限定されているため、医療費助成の対象から外れている患者が相当数にのぼる。特に、肝硬変・肝がん患者は高額な医療費を負担せざるを得ないだけでなく、就労不能の方も多く、生活に困難をきたしている。

また、現在は肝硬変を中心とする肝疾患も身体障害者福祉法上の障害者手帳の対象とされているものの、医学上の認定基準がきわめて厳しいため、亡くなる直前でなければ認定されないといった実態が報告されるなど、現在の制度は肝炎患者に対する生活支援の実効性を発揮していないとの指摘がなされている。

肝硬変・肝がん患者は、毎日120人以上の方が亡くなっており、医療費助成を含む生活支援の実現は、一刻の猶予もない課題である。

以上のことから、国においては次の事項を実現するよう強く要望する。

記

- 1 ウイルス性肝硬変・肝がんに係る医療費助成制度を創設すること。
- 2 身体障害者福祉法上の肝機能障害による身体障害者手帳の認定基準を緩和し、患者の実態に応じた認定制度にすること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成26年6月24日

大空町議会議長 近藤 哲雄



【 送 付 先 】

- ・ 衆議院議長 伊 吹 文 明
- ・ 参議院議長 山 崎 正 昭
- ・ 内閣総理大臣 安 倍 晋 三
- ・ 厚生労働大臣 田 村 憲 久